第28回

日本癌病態治療研究会当番世話人ご挨拶

第28回日本癌病態治療研究会当番世話人
埼玉医科大学総合医療センター
消化管・一般外科／ゲノム診療科 教授　石田 秀行

万緑の候、皆様におかれましては益々ご清祥のことと拝察申し上げます。平素は格別なるご高配を賜り、心より御礼申し上げます。令和元年6月27日・28日、埼玉県川越市のウェスタ川越において開催されます第28回日本癌病態治療研究会の当番世話人を務めさせていただくことになりました。千葉大学　名誉教授　磯野可一先生、東海大学　名誉教授　生越喬二先生の多大なるご尽力のもとに平成4（1992）年に発足した歴史と伝統のある本研究会の学術集会を担当させていただくことはこの上ない光栄であり、理事、世話人、施設代表者の先生方をはじめ、関係各位には心より感謝申し上げます。現在、教室員一同、開催に向けて鋭意尽力させていただいております。

今回の学術集会のテーマを「思索生知」とさせていただきました。癌病態の解明や新規治療法の開発は日進月歩であり、がんゲノム医療や人工知能による診断補助などが臨床現場に登場し、網羅的な遺伝子解析等によるビッグデータの活用も可能な時代になってきています。このような時代であるからこそ、「原点に立ち返り、論理的な思考を巡らせることにより、新たな展開につなげる姿勢を大切にしたい」という気持ちを込めさせていただきました。

6月27日には主題関連としてパネルディスカッション「病態に応じた低侵襲がん治療の工夫」、ワークショップ「がん治療抵抗性の克服：基礎と臨床」、「AI（内視鏡・病理等）／新たな診断法」、「Hypermutant腫瘍と免疫応答：基礎と臨床の最前線」を企画しています。また教育講演として埼玉医科大学ゲノム医学研究センター・遺伝子情報制御部門部門長・客員教授／東京都健康長寿医療センター研究所・老化機構研究チーム・システム加齢医学研究部長の井上聡先生に「患者由来がん培養・移植モデルの樹立と難治がん分子標的探索」のタイトルでがん3次元培養の最先端に関するご講演をいただく予定です。スポンサードシンポジウムでは山梨大学医学部　解剖学講座細胞生物学教室教授の竹田扇先生に「病理診断学と機械学習：暗黙知と形式知からのがん診断」のタイトルで、病理学的診断学の革命にも通ずる内容をご講演いただく予定です。ランチョンセミナーでは川崎医科大学　臨床腫瘍学教室准教授の永坂岳司先生に消化器癌化学療法のトピックス、コーヒーブレイクセミナーではがん研究会有明病院　消化器化学療法科

部長の山口研成先生にがん化学療法とがんゲノム医療、イブニングセミナーでは東京医科歯科大学消化管外科教授の絹笠祐介先生に直腸癌に対する低侵襲手術（ロボット支援手術を含む）に関し、ご講演をいただく予定です。

28日には主題関連としてシンポジウム「消化器発がんのゲノム・エピゲノム異常研究の最前線」、ワークショップ「リキッドバイオプシーの現状と将来展望」、「長期経過から見たConversion surgeryの検証（上部消化管）・（下部消化管、肝胆膵）」を企画しました。特別講演として慶應義塾大学医学部　腫瘍センター　ゲノム医療ユニット特任教授の西原広史先生には「がん遺伝子パネル検査によるプレシジョンメディシンの現状と今後の方向性」のタイトルでがんゲノム医療の最先端と今後の展望についてご講演いただく予定です。またランチョンセミナーでは国立大学法人神戸大学大学院医学研究科　食道胃腸外科学教授の掛地吉弘先生に病態に応じた大腸癌の最新医療治療について、コーヒーブレイクセミナーでは横浜市立大学附属市民総合医療センター　消化器病センター外科教授の國崎主税先生に胃癌に対する内視鏡外科の将来展望について、ご講演いただく予定です。

今回の学術集会でも大変興味ある多数の一般演題をご登録いただきました。これらは例年通り、すべてポスター発表とさせていただきました。各セッションの合間や、一日目の全員懇親会の場でも熱きディスカッションをお願い申し上げます。

私は東京医科歯科大学在職中、実験肝転移の研究に従事しておりました。マウスやラットの門脈に可移植性腫瘍株の癌細胞を移植し、経時的に摘出肝の組織像を調べていました。癌細胞が門脈系に着床後、かなり微小な大きさの時から肝動脈終末枝や胆管周囲毛細血管叢からの血流を受けながら浸潤・増殖していくさまを形態学的に明らかにした際の感動は今も忘れません。埼玉医科大学に入職してからは、臨床一筋に邁進してきましたが、ここ数年、専門の一つとしてきた遺伝性大腸癌のゲノム・エピゲノム研究に携われるようになり、いまさらながら若い教室員や基礎研究者と熱い議論を交わせるようになりました。新元号「令和」となった本年はまさにがんゲノム医療元年でもあり、私個人の関心にやや特化した構成となりました点をどうかお許し下さい。

この新しい時代の幕開けを、癌病態の解明と治療の研究に邁進されている諸先生方とともに2日間、じっくり学ばせていただくことに大変な喜びを感じております。癌病態・治療研究のエキスパートの先生方の極めてハイレベルなディスカッションへの期待はもちろん、未来を担う多数の若手臨床医・研究者の先生方にご参加いただくことで、実りある学術集会になることを切に願っております。東京医科歯科大学時代の恩師三島好雄先生、埼玉医科大学入職後の恩師出月康夫先生の存在は、私にとってはあまりにも大きく、本学術集会の当番世話人を拝命したことすら恥ずかしい限りですが、本学術集会終了後にそっとご報告したいと考えております。

本学術集会が埼玉県で開催されるのは初めてですが、開催地の川越は「小江戸」とも称される由緒ある城下町です。何かと行き届かない点があるかと存じますが、教室員が一丸となって「小江戸」で皆様のお越しをお待ちしております。

末筆ながら、本学術集会の当番世話人として浅学菲才な私ごときをご指名いただいた、大学の大先輩の前理事長　竹之下誠一先生、学術集会の運営に多々ご指導いただきました理事長　松原久裕先生、副理事長　柴田昌彦先生、副理事長　永瀬浩喜先生に深甚なる感謝の意を表します。